24　　酒を断った上戸の境地　　　　　　　　　　名詞・連体詞・接続詞・感動詞

是非庵の主が、もと酒に更けるや、雪月花の興にもよらず、友あるにも飲み、友なきにも飲み、腸はただ沖の石のかわく間もなき生涯Ａなれば、ある時左螯の二字を戯れ与へしが、辛巳の秋重くなやみてより後、いかなる時か来たりアけん、飲まぬは飲むに勝り、酔はざるは酔ふよりも面白きものをと、三十余年の夢忽然と覚めて、さしも世のそしり人の諫めも、蚊虻に聞き捨てしをのこの、壺を破り盞を砕きて、雫も厭ふ下戸とＢなりけるこそ目さむる業なりイけれ。この人の痛飲せしほど、下戸はさらＣなり、上戸仲間さへつぶやきて、「かくては命も続くウまじく、銭はやがて尽きエなん」と、うたてきことに思ひし人々、かつ驚きかつ賞して、これを賀してやまず。されば枝柿の渋きより甘きに変はれる味は、蜜・砂糖に勝れるを思へば、生まれながらの下戸にいや増して、始めの渋きに反るべからず。さらば、その名の螯も舎て、今より左に餅を持し、右に煎茶を甘なひて、再び昔の酔郷には、頭をめぐらすべからずと、舎螯の二字に改めて贈ることしかり。

【本文チェック】

①　ア～エの助動詞の、文法的意味を〔　〕に書きなさい。

ア〔　　　　　　　　　〕　イ〔　　　　　　〕

ウ〔　　　　　　　　　〕　エ〔　　　　　　〕

②□Ａ～Ｃの「なれ」「なり」は、Ｘ動詞・Ｙ形容動詞の一部・Ｚ助動詞のどれか。それぞれ【　】に記号で書きなさい。

Ａ【　　　】　Ｂ【　　　】　Ｃ【　　　】

③「改めて贈る」とあるが、はじめは何を贈ったのか。本文中から探し、□で囲みなさい。

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。＊〔数字〕はノート本冊での本文の行数を表す。

１　やがて〔７〕　　 ①そのまま

②（　　　　　）

２　うたてし〔７〕 （　　　　　　　）

問２　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　つれづれわぶる人は、いかなる心ならん。　（徒然草）

ア　どのような　　　イ　どうにもならない

ウ　なんとしても　　エ　言いようのない

（　　　）

２　ゆくゑも知らぬ旅の空にてうき目を見せ奉らんもうたてかるべし。　（平家物語）

ア　都合が悪い　　イ　興覚めな

ウ　恐れ多い　　　エ　情けない

（　　　）

【文法力 ✚】

問３　次の傍線部は、ア名詞、イ連体詞、ウ接続詞、エ感動詞のいずれかを答えよ。

１　さしたることなくて、人のがり行くは、よからぬことなり。（徒然草）

２　行く河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。（方丈記）

３　あはれを交はし給ふ御仲なれば、（源氏物語）

４　あないみじ。心憂きめを見せたまふかな。（源氏物語）

１（　　　）　　２（　　　）　　３（　　　）　　４（　　　）

問４　次の傍線部の接続詞の働きを、後から選べ。

１　和歌ひとつずつ仕うまつれ。さらば許さむ。（紫式部日記）

２　の報いの、みづから悩ますか、はたまたの至りてせるか。（方丈記）

３　川中へ落ちりぬ。されどもちつとも水にもおぼれず、（平家物語）

ア　選択　　イ　添加　　ウ　並列　　エ　逆接　　オ　順接

１（　　　）　　２（　　　）　　３（　　　）

問５　次の傍線部の感動詞の働きを、後から選べ。

１　「いで君も書い給へ」とあれば、　（源氏物語）

２　の後に、えいとへたりければ、（宇治拾遺物語）

３　「あはれ、いと寒しや」（源氏物語）

ア　感動　　イ　呼び掛け　　ウ　応答

１（　　　）　　２（　　　）　　３（　　　）

【探究】調べてみよう

問６　本文では「引歌」という表現技法が用いられている。次のどちらかを選び、「引歌」「本歌取り」の理解を深めよう。

ア　他の古典作品での「引歌」表現の例を一つ挙げよう。

イ　現代での、他の歌曲の一部を用いながら作られた歌曲（アンサーソングなども可）を一つ挙げよう。

〔

〕

【解答】

【本文チェック】＊〔数字〕はノート本冊での本文の行数を表す。

①　ア＝過去原因推量　イ＝詠嘆　ウ＝打消当然　エ＝強意

②　Ａ＝Ｚ　Ｂ＝Ｘ　Ｃ＝Ｙ

③　左螯（の二字）〔２〕

問１　１＝すぐに　２＝嘆かわしい

問２　１＝ア　２＝エ

問３　１＝イ　２＝ウ　３＝ア　４＝エ

問４　１＝オ　２＝ア　３＝エ

問５　１＝イ　２＝ウ　３＝ア

問６　観点　アの場合、古歌の一部を文章に引用しているものを挙げられていればよい。イの場合、アンサーソングや他の歌を元にして作られた歌を挙げられていればよい。

【現代語訳】

問２　１　することがなく手持ちぶさたなことをつらいと思う人は、どのような気持ちなのであろうか。

２　行方もわからない旅の空でつらい目をお見せするのも情けないことだ。

問３　１　たいした用事もなくて、人のもとへ行くのは、よくないことだ。

２　行く川の流れは絶えることがなく、その上（それは）もとの水（が流れているの）ではない。

３　愛情をたがいに抱き合いなさっているお仲なので、

４　ああ情けないこと。（私に）つらい思いをさせなさるのだなあ。

問４　１　和歌を一首ずつ詠み申し上げよ。そうしたら許そう。

２　貧賤の報いが、自分を悩ませるのか、それとも妄心がやってきて狂わせるのか。

３　川の中へ落ち込んでしまった。けれども少しも水におぼれることなく、

問５　１　「さああなたも書いてごらんなさい」と言うと、

２　すっかり後になって、はいと返事をしたので、

３　「ああ、ひどく寒いことよ」